

未来をともに幸せに生きる

◆私たち教職員は、これまでもこれからも、

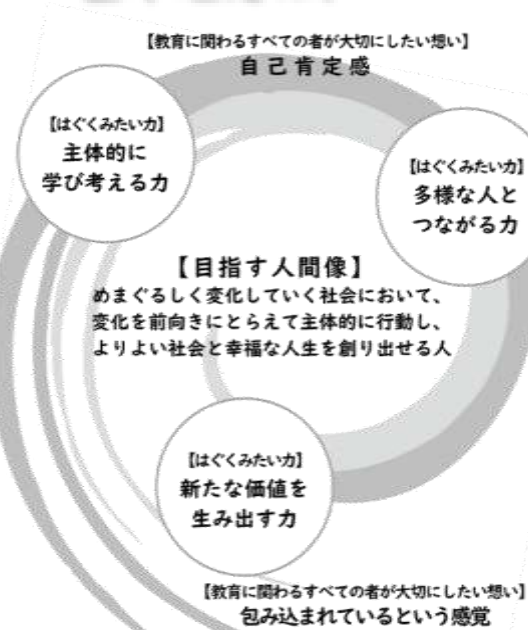
これからの世の中は、予測が困難な要因としての4つの特性、変動性 (Volatility)・不確実性(Uncertainty)・複雑性 (Complexity)・曖昧性(Ambiguity) の頭文字をつなぎ合わせて、VUCA WORLD (ブーカワールド) と表現されることがあります。その意味は、「分かることは、変化するというこののみ」と言われています。

私たち教職員は**これまでもこれからも**、幼児期からの学びの連続性を大切にしながら授業改善に取り組み、すべての子どもが、未来社会を自立して切り拓くための資質・能力を育成することを目指します。

そのために私たち教職員は、社会や教育の変化を前向きに捉え、学校全体で組織的・計画的に教育活動を進め、苦手意識のある分野でも、できるところから少しずつ挑戦をしていく、生涯にわたって能動的に学び続ける者であり続けます。



◆京都府の教育の基本理念は、



誰もが、周囲からの愛情や信頼、期待などに「包み込まれているという感覚」を土台として、「自己肯定感」をはぐくむことにより、上昇するらせんのように「主体的に学び考える力」「多様な人とつながる力」「新たな価値を生み出す力」を少しずつ身に付けながら、「目指す人間像」へと成長していく様子をイメージしました。

【第2期京都府教育振興プラン】

◆中丹教育局の目指すところは、

未来をともに幸せに生きる力を身に付けた子どもの育成です。

学校教育 目標

- ★ 一人一人の子どもが、自分のよさや可能性を認識し、主体的に学び考えるように導く。
- ★ あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働し、新たな価値を生み出すように導く。

令和3年度 取組の重点

人権教育の充実・推進	課題解決型学習の推進	教員のICT活用指導力の向上
------------	------------	----------------

その実現のために、

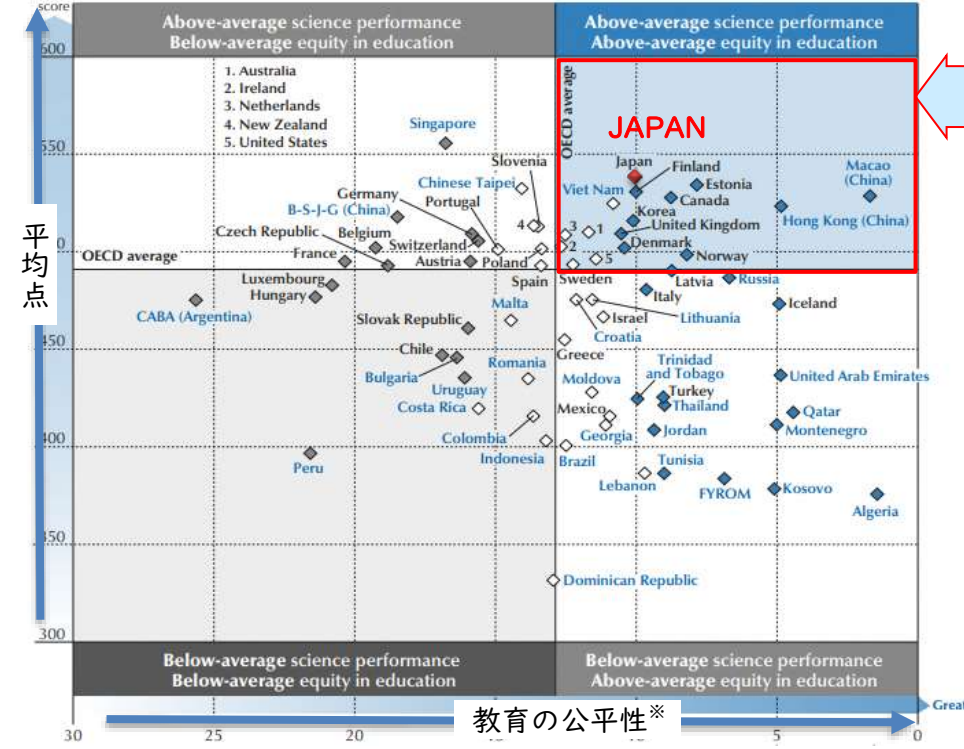
新学習指導要領を着実に実施します。



～変化を前向きに捉え、できることから挑戦!～

◆私たち教職員は、自信を持とう。

科学的リテラシーと教育の公平性の関連から見る各国の姿
OECD PISA2015



各国は平均点も教育の公平性も参加国の平均以上である、左のグラフの□に入ることを目指しています。PISA 調査が始まった2000年から2018年の調査まで、日本は常にその□のエリアに入り続けています。世界各国からはその教育実践が高く評価されています。

私たち教職員は、これまで実践してきたことに自信を持ちましょう。そして**これまでもこれからも**、すべての子どもが高い教育水準に到達することが可能であると期待し、粘り強く指導しましょう。

*教育の公平性とは、性別、民族的出自、家庭環境などの個人的・社会的状況が教育の可能性を実現する障害にならず(公平性)、全ての個人が少なくとも基礎的な技能の最低水準に達する(包摂性)ことを意味する。

◆私たち教職員も、まずやってみよう。

子どもも私たち教職員も、未来社会を他者とともに幸せに生きていきたいと願っています。未来社会を自立して切り拓くためには、学校教育に続き、生涯にわたって能動的に学び続けなければなりません。

「1人1台端末・高速通信環境」がもたらす学びの変容イメージ

GIGAスクール構想	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す
------------	---

これまでの教育実践の蓄積 × ICT = 学習活動の一層充実
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

一斉学習	教師が電子黒板等を用いて説明し、子供たちの興味関心意欲を高めることはできる	学びの深化	教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる → 子供たち一人一人の反応を踏まえたきめ細かな指導等、双方向型の授業展開が可能に
個別学習	全員が同時に同じ内容を学習する(一人一人の理解度等に応じた学びは困難)	学びの転換	各人が同時に別々の内容を学習できる → 各人の学習履歴が自動的に記録される → 一人一人の教育的ニーズ・理解度に応じた個別学習や個に応じた指導が可能に
協働学習	グループ発表ならば可能だが、自分独自の意見は発信しにくい(積極的な子はいつも発表するが、控えめな子は「お客さん」)		一人一人が記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集できる → 各自の考えを即時に共有し、共同編集ができる → 全ての子供が情報の編集を経験しつつ、多様な意見にも即時に触れられる

「1人1台端末」の活用によって充実する学習の例	<ul style="list-style-type: none"> ☑ 調べ学習 課題や目的に応じて、インターネット等を用い、記事や動画等の様々な情報を主体的に収集・整理・分析 ☑ 表現・制作 推敲しながらの長文の作成や、写真・音声・動画等を用いた多様な資料・作品の制作 ☑ 遠隔教育 大学・海外・専門家との連携、過疎地・離島の子供たちが多様な考えに触れる機会、入院中の子供と教室をつないだ学び ☑ 情報モラル教育 実際に真実様々な情報を活用する各場面(収集・発信など)における学習
-------------------------	--

抜粋 GIGAスクール構想の実現について 文部科学省初等中等教育局

「中丹のまなびXI」「中丹のまなびX」「中丹のまなびIX」は、未来を拓いていく学校として大切にしたいことをまとめています。3冊を合わせて校内研修等に御活用ください。